

安全データシート



1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 :
化学物質を特定する他の方法 :

供給者の会社名称 :

緊急連絡電話番号(受付時間) :

推奨用途及び使用上制限

意図される使用

拭く、さまざまなサーフェスまたは構成部品のクリーニングします。業務用途に限る。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類 : 引火性液体 - 区分3
生殖毒性 - 区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露) - 区分2
特定標的臓器毒性(反復ばく露) - 区分2

GHS ラベル要素

2. 危険有害性の要約

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 :

警告

危険有害性情報 :

H226 - 引火性液体及び蒸気。
 H361 - 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。
 H371 - 臓器の障害のおそれ。(中枢神経系 (CNS))
 H373 - 長期にわたる, 又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ。(血液系、肝臓、呼吸器系、脾臓)

注意書き

概要 :

該当しない。

安全対策 :

P201 - 使用前に取扱説明書を入手すること。
 P202 - 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 P280 - 保護手袋、衣類および保護眼鏡又は保護面を着用すること。
 P210 - 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
 P260 - 蒸気を吸入しないこと。
 P270 - この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 P264 - 取扱い後はよく洗うこと。

応急措置 :

P308 + P311 - ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。
 P303 + P361 + P353 - 皮膚(又は髪)に付着した場合: 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。皮膚を流水で洗うこと。

保管 :

P405 - 施錠して保管すること。

廃棄 :

P501 - 内容物および容器を現地、地域、国および国際的規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物

化学名又は一般名	%	CAS 番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
イソプロピルアルコール	5 - <10	67-63-0	2-207	2-(8)-319

暴露限界がある場合、セクション8に記載されている。

4. 応急措置

吸入した場合 :

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。健康上有害な影響が持続または重篤な場合には医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合 :

多量の水で、汚染された皮膚を洗浄する。症状が現れたら、医師の診断を受ける。

眼に入った場合 :

すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。少なくとも20分間洗い流し続ける。炎症が生じた場合、医師の診察を受ける。

飲み込んだ場合 :

水で口を洗浄する。入歯をしている場合ははずす。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませてはならない。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。医師の診断を受ける。必要に応じて医師に連絡する。意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。意識がない場合、昏睡位(うつ伏せで顔をやや横向き)にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。

最も重要な徴候及び症状

予想される急性健康影響

吸入した場合 :

吸入すると、単回暴露で臓器に障害を引き起こすおそれがある。

4. 応急措置

- 皮膚に付着した場合** : 皮膚に接触すると、単回暴露で臓器に障害を引き起こすおそれがある。
- 飲み込んだ場合** : 飲み込むと、単回暴露で臓器に障害を引き起こすおそれがある。
- 短期的にばく露した場合の徴候症状**
- 予想される遅発性影響** : 重大な作用や危険有害性は知られていない。
- 過剰にばく露した場合の徴候症状**
- 吸入した場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
胎児体重の減少
子宮内胎児死亡の増加
骨格の変形
- 皮膚に付着した場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
胎児体重の減少
子宮内胎児死亡の増加
骨格の変形
- 眼に入った場合** : 重大な作用や危険有害性は知られていない。
- 飲み込んだ場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:
胎児体重の減少
子宮内胎児死亡の増加
骨格の変形
- 応急処置をする者の保護** : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。
- 医師に対する特別な注意事項** : 症状に対応した対処療法を行うこと。大量に摂取あるいは吸引した場合は、直ちに毒物治療の専門医に連絡する。

5. 火災時の措置

- 消火剤** : 粉末化学消火剤、炭酸ガス、水噴霧、泡消火剤を使用します。
- 使ってはならない消火剤** : ウォータージェットを使用してはならない。
- 特有の危険有害性** : 引火性液体及び蒸気。流出物が下水道に流れ込むと、火災や爆発を引き起こす危険性がある。火災の際や加熱された場合、圧力の上昇が起こり、容器が破裂し、その結果爆発が起こるリスクがある。
- 特有の消火方法** : 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。危険でなければ、火災現場から容器を移動させる。ウォータースプレーを使用して火気にさらされた容器を冷温に保つ。
- 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置** : 消火を行う者は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェイス部分を備えた自給式の呼吸器具を装着しなければならない。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置**
- 非緊急時対応要員について** : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。周辺地域の人々を避難させる。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。全ての発火源を遮断する。危険地域には、発火信号、煙草、火焰機器を持ち込まない。蒸気や噴霧の吸入を避ける。十分な換気を行う。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護用具を着用する。適切な個人保護装置を着用する。
- 緊急時対応要員について** : 流出分の取り扱いに専用衣類が必要な場合には、適切および不適切な物質に関するセクション8に記載の情報を注意しなければならない。「緊急時要員以外の人員用」の情報も参照。
- 環境に対する注意事項** : 製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材**

6. 漏出時の措置

- 少量に流出した場合** : 危険性がなければ、漏れを止める。漏出区域から容器を移動する。火花を発生しない工具及び防爆型の装置を使用する。水溶性なら水で希釈してぬぐい取る。あるいは、または水に不溶性の場合、乾燥した不活性吸収剤に吸着させ、適切な廃棄物処理容器に入れる。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。
- 大量に流出した場合** : 物質を吸い取るか拭き取り、ラベル表示した廃棄容器に収容する。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 安全取扱注意事項** : 適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。暴露を避けること—使用前に取扱説明書を手すること。妊娠中は暴露を避ける。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。眼、皮膚および衣類に触れないようにする。摂取してはならない。換気が十分な場所でのみ使用する。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。十分な換気がない限り、保管場所および密閉された空間に入らないこと。使用しないときは元の容器又は適合素材で作られた認可済みの代替容器に入れ、密閉して保存する。熱、火花、炎、その他の発火源から離れた場所で保管ならびに使用する。火花を発生させない工具を使用すること。容器が空でも製品の残留物が残存して有害危険性がある。容器を再利用してはならない。
- 衛生対策** : 本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食および喫煙は厳禁。作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。同様にセクション8の衛生措置に関する追加情報も参照。

保管

- 安全な保管条件** : 現地の法規制に従って保管する。隔離され認定された場所に貯蔵する。元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質(セクション10を参照)および飲食物から離して保管する。あらゆる発火源を除去する。酸化性物質に近づけない。使用直前まで、容器は固く閉め封止して保管する。ラベルのない容器に保管してはならない。環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。非相溶性材料については取扱いまたは使用の前にセクション10を参照のこと。

8. ばく露防止及び保護措置

- 設備対策** : 換気が十分な場所でのみ使用する。工程の隔離、局所排気通風装置あるいはその他の技術的管理設備を使用し、作業者が暴露される空気中の汚染物質濃度をあらゆる推奨あるいは法定暴露限界以下に保つ。ガス、蒸気あるいは塵埃の濃度を暴露限界以下に保つためには技術的な管理も必要となる。防爆型換気装置を使用する。

曝露限界

化学名又は一般名	暴露限界値
2-プロパノール	日本産業衛生学会(日本、5/2018)。 OEL-C: 400 ppm OEL-C: 980 mg/m ³ 安衛法(日本、2/2019)。 管理濃度: 200 ppm 8時間。

保護具

- 呼吸用保護具** : 推奨: 蒸気マスク。
- 手の保護具** : リスク評価によって必要とされるときは、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。手袋製造業者により特定されたパラメータを考慮して、手袋の使用中に手袋がまだ保護性を維持しているかを確認すること。あらゆる手袋の材料は製造業者が異なれば透過時間も異なる可能性があることに注意する必要がある。
- 眼の保護具** : 推奨: 安全眼鏡。
- 皮膚及び身体の保護具** : 作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならず、さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。静電気から引火する可能性がある場合には、帯電防止防護服を着用しなければならない。静電放電から最大限に保護するためには、保護具に帯電防止オーバーオール、長靴および手袋が含まれていなければならない。
- この製品を取り扱う前に、行う作業とそれに付随するリスクに基づき適切な履物および何らかの追加的な皮膚保護具を選択し、専門家の認可を受けなければならない。

9. 物理的及び化学的性質

特に明記されていない限り、性質の測定条件はすべて、標準の温度と圧力である。

外観

物理的状态	: 液体 [固体液体 (前接液ワイパー) を含んでいます]
色	: 無色の液体で白基板。
臭い	: 消毒用アルコール。
pH	: 7
融点・凝固点	: データなし。
軟化点	: データなし。
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし。
引火点	: 密閉式: 51°C (123.8°F)
引火性	: 次の物質および条件の存在下で非常に引火性: 裸火、火花、および放電 および ショックおよび機械的衝撃。
爆発性／可燃性の下限と上限	: 下限: 2% 上限: 12.7%
蒸気圧	: データなし。
相対的蒸気密度	: データなし。
相対密度	: データなし。
溶解度	: 以下の物質に不溶性: 冷水 および 温水。
n-オクタノール／水分配係数	: 該当しない。
自然発火温度	: 399°C (750.2°F)
分解温度	: データなし。
粘度	: データなし。
粒子特性	
中央粒径値	: 該当しない。

10. 安定性及び反応性

反応性	: この製品またはその成分に関しては、反応性に関する利用可能な具体的試験データはない。
化学的安定性	: 製品は安定である。
危険有害反応可能性	: 通常の貯蔵および使用条件下では、有害な反応は起こらない。
避けるべき条件	: いかなる発火源 (火花あるいは炎) にも近づけてはならない。加圧、切断、溶接、口付け、はんだ付け、穴あけ、研削を行ってはならず、容器を熱源や発火源に近づけてはならない。
混触危険物質	: 次の物質と非常に反応性あるいは危険配合製: 酸化性物質。
危険有害な分解生成物	: 通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	投与量	暴露時間
2-プロパノール	LD50 経皮 LD50 経口	ウサギ ラット	12800 mg/kg 5000 mg/kg	- -

急性毒性の推定

製品 / 成分の名称	経口 (mg/kg)	経皮 (mg/kg)	吸入 (ガス) (ppm)	吸入 (蒸気) (mg/l)	吸入 (ダストおよびミスト) (mg/l)
2-プロパノール	5000	12800	N/A	N/A	N/A

刺激性/腐食性

製品 / 成分の名称	結果	種類	スコア	暴露時間	観察
2-プロパノール	眼 - 中程度の刺激	ウサギ	-	24 時間 100 mg	-
	眼 - 中程度の刺激	ウサギ	-	10 mg	-
	眼 - 強度の刺激	ウサギ	-	100 mg	-
	皮膚 - 軽度の刺激	ウサギ	-	500 mg	-

呼吸器感作/皮膚感作

利用できるデータがない。

生殖細胞変異原性 (変異原性)

利用できるデータがない。

発がん性

利用できるデータがない。

生殖毒性

利用できるデータがない。

特定標的臓器毒性、単回ばく露

名称	カテゴリ	暴露経路	標的器官
2-プロパノール	区分1 区分3 区分3	-	中枢神経系 (CNS) 気道刺激性 麻酔作用

特定標的臓器毒性、反復ばく露

名称	カテゴリ	暴露経路	標的器官
2-プロパノール	区分1 区分2	-	血液系 肝臓、呼吸器系、脾臓

吸引性呼吸器有害性

利用できるデータがない。

12. 環境影響情報

生態毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	暴露時間
イソプロピルアルコール	急性 EC50 7550 mg/L 真水	ミジンコ類 - Daphnia magna - 新生児	48 時間
	急性 LC50 1400000 µg/l 海水	甲殻類 - Crangon crangon	48 時間
	急性 LC50 4200 mg/L 真水	魚類 - Rasbora heteromorpha	96 時間

残留性・分解性

利用できるデータがない。

生体蓄積性

製品 / 成分の名称	LogP _{ow}	BCF	可能性
イソプロピルアルコール	0.05	-	低

土壤中の移動性

: データなし

オゾン層への有害性

: 該当しない。

他の有害影響




: 重大な作用や危険有害性は知られていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

: 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。管轄当局の要件に完全に準拠しない限り、廃棄物を無処理で下水道に流してはならない。不要な包装材料は再利用しなければならない。焼却または埋め立ては、再利用が不可能な場合にのみ検討すべきである。この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。清掃または洗浄されていない空容器を取り扱う際には注意しなければならない。空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。

14. 輸送上の注意

	UN	IMDG	IATA
国連番号	UN3175	UN3175	UN3175
品名	引火性液体を含有する固体、N.O.S. (2-プロパノール)	引火性液体を含有する固体、N.O.S. (2-プロパノール)	引火性液体を含有する固体、N.O.S. (2-プロパノール)
国連分類 クラス	4.1 	4.1 	4.1 
容器等級	II	II	II
環境有害性	該当せず。	該当せず。	該当せず。

使用者のための特別な予防措置 : 使用者の施設内での輸送: 直立型の安定した容器に入れて輸送する。製品輸送者が事故の際に対応できるようにする。

14. 輸送上の注意

IMO機器によるばら積み運搬 : データなし

15. 適用法令

消防法

カテゴリ	物質名/種類	危険性区分	注意喚起語	指定数量
第四類	第二石油類	III	火気厳禁	1000 L

安衛法

名称等を表示すべき危険物及び有害物

化学名又は一般名	%	状況	政令番号
プロピルアルコール	5 - <10	該当	494

名称等を通知すべき危険物及び有害物

化学名又は一般名	%	状況	政令番号
プロピルアルコール	5 - <10	該当	494

労働安全衛生法施行令 別表 : 引火性液体 クラス4
第一 危険物

有機溶剤中毒予防規則 : 第2種

化学物質審査規制法

化学名又は一般名	%	状況	政令番号
イソプロピルアルコール; プロパン-2-オール	5 - <10	優先評価化学物質	102

毒物及び劇物取締法

記載された成分なし。

化学物質排出把握管理促進法

記載された成分なし。

16. その他の情報

履歴

印刷日 : 2021/11/30
前作成日 : 非該当
バージョン : 1
内部コード : 120-014
作成者 : KMK Regulatory Services Inc.

分類を行うために使用する手順

分類	由来
引火性液体 - 区分3 生殖毒性 - 区分2 特定標的臓器毒性(単回ばく露) - 区分2 特定標的臓器毒性(反復ばく露) - 区分2	試験データに基づく 算出方法 算出方法 算出方法

注意事項

16. その他の情報

我々の知る限りにおいて、ここに記載した情報は正確です。しかしながら、上記の供給業者あるいはその子会社のいずれも、ここに記載した情報の正確さあるいは完全性に関していかなる責任も負うものではありません。製品の適合性については、ご使用各位の責任において決定してください。全ての物質は未知の危険有害性を含んでいる可能性があるため、取り扱いには細心の注意が必要です。ここには特定の危険有害性が記載されていますが、これらが存在する唯一の危険有害性であることが保証されているものではありません。